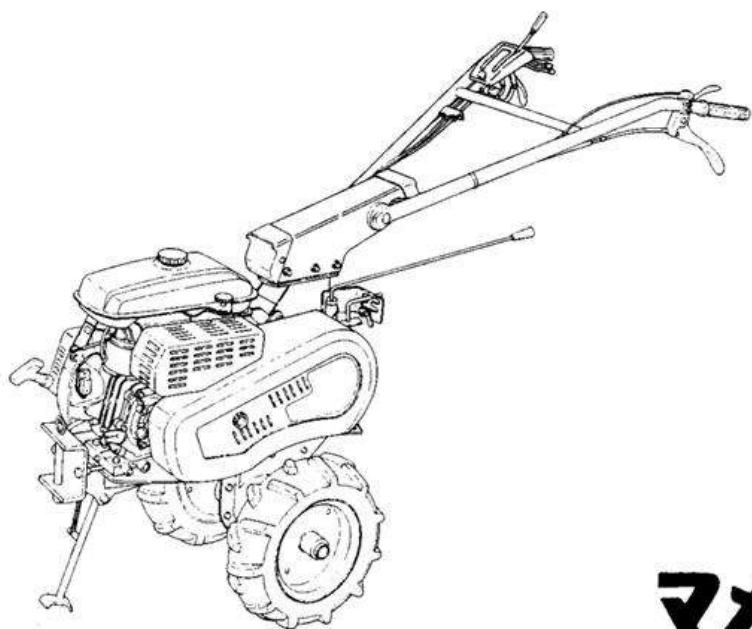


# マメトラテトラ

DMC-600 DMC-700 ★取扱説明書★



マメトラ

マメトラ農機株式会社

## はじめに

---

このたびは「マメトラDMC-600, DMC-700」をお買い上げ戴き厚く御礼申し上げます。

本機は農業機械の製造販売に多年の経験を持つ弊社が、高度の技術を結集してお手許に送りしました機械です。

お買い上げになりました本機の性能耐久性、そして操作の簡単さは必ずやご満足いただけるものと確信致しております。

この説明書は、あなたの「マメトラDMC-600, DMC-700」をいつも故障なくいつまでも最良の状態で、本機の性能を発揮させ、ご活用していただくために簡単な注意点をやさしく説明してありますので本機の御使用前にはよく熟読の上いつも正しい取扱いをしていただくようお願い致します。

# 1 特 長

## (1) 快適なエンジン

ハウス内作業も快適に出来るよう、騒音・排気等を考慮し、定評ある空冷4サイクルOHV式ガソリンエンジンを搭載しています。また軽い引張り力で始動する自動減圧装置を装備しています。

## (2) 多彩な車速

Wテンション方式により車速はロータリー作業からマルチ、ロータ、移動とあらゆる作業に適した車速を備えており、ワンタッチ操作で選べます。

## (3) コンパクトな機体

軽量・小形の機体にハンドル回動・各種作業機装着等、管理作業での取扱いに、十分な考慮がはらってあります。

## (4) 軽い旋回

サイドクラッチはマメトラ独特の特殊ローラー方式を採用しているため極めて軽い操作力で旋回が出来ます。

## (5) リバシブルなハンドル

ハンドルは、各種作業に応じて、上下左右調節の他、ハンドル回動(180° 旋回)がワンタッチで操作出来ます。又ハンドルは一方向のみの回動しか出来ない様な安全設計です。

## (6) サイドクラッチの全自動切替

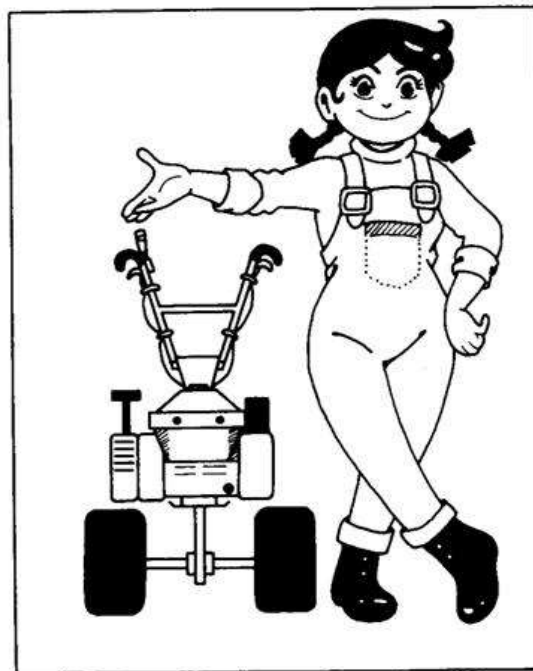
ハンドルの回動に合せサイドクラッチワイヤーは自動的に切替出来ますから作業が容易で安全です。

## (7) 安全スタート・マメクラッチ

ハンドルを握ったまま、主クラッチ連動のマメクラッチを親指操作で主クラッチの「入・切」ができますので、安全に作業ができます。

## (8) 完璧な安全設計

エンジンからの伝導ベルトはもちろん、動力取出軸も完全にカバーされ、安心して使用出来るよう考慮してあります。



# 2 仕 様

## (1) 本 機

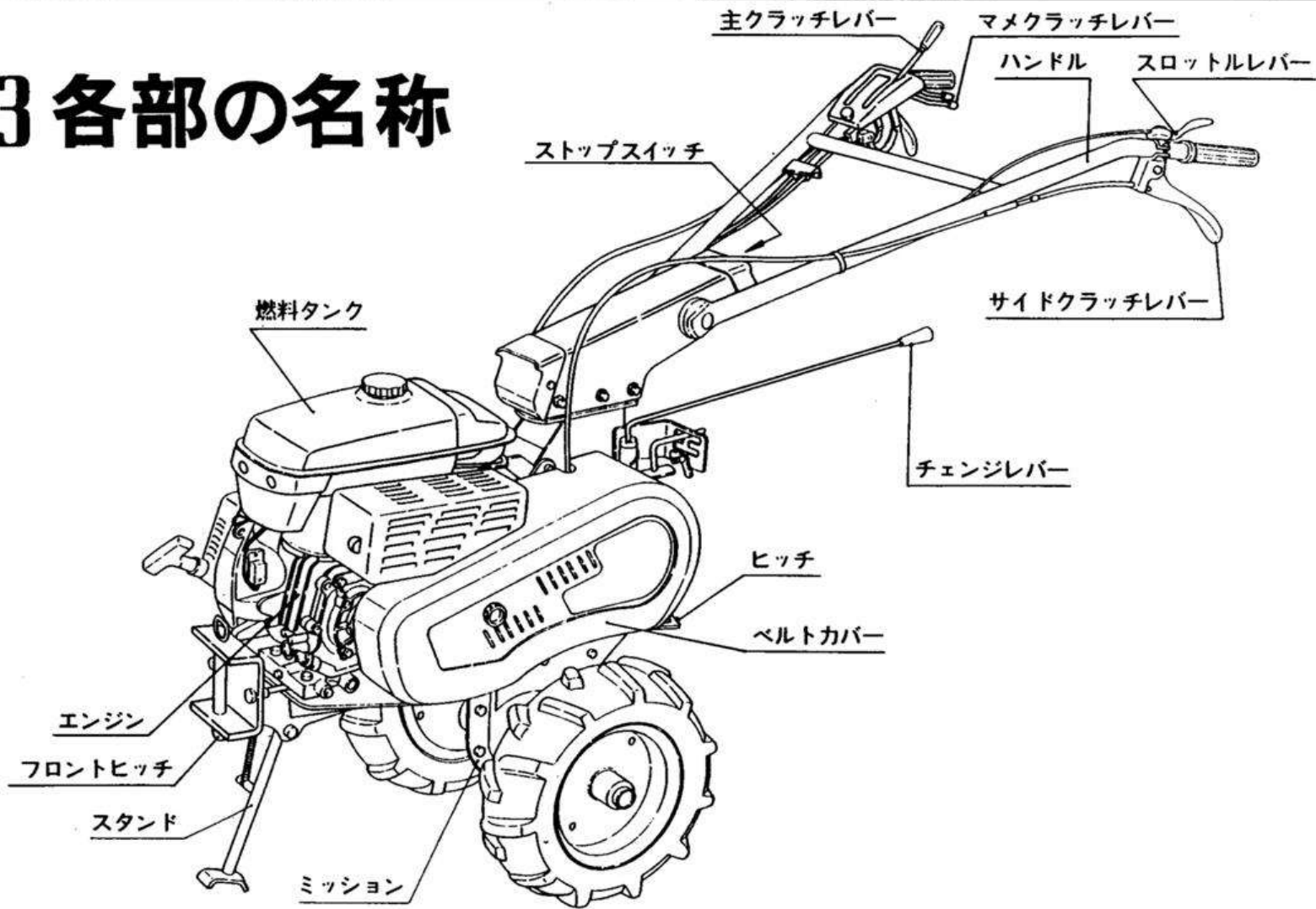
項 目	仕 様	
名 称	マメトラティラー	
型 式 (区分)	DMC -700-II	DMC -600-II
機 体 寸 法	全 長 <i>mm</i>	1470
	全 巾 <i>mm</i>	620
	全 高 <i>mm</i>	980
	重 量 <i>kg</i>	76
変 速 段 数	前進6段・後進2段	
主 ク ラ ッ チ	Wベルトテンション式	
動力伝達方式	Vベルト, ギヤー	
操 向 ク ラ ッ チ	特殊ローラ式・全自動切替	
標 準 タ イ ヤ	400-8	400-7
轍 間 距 離	300mm~750mm (中心距離)	
車 軸 径	31φ	
ホイールチューブ径	40φ	
最大ロータ径	450φ	
PTO軸径(主軸)	20×18×1 インボリュートスプライン	
PTO軸回転数	533 rpm	600 rpm
ハンドル形式	回動式松葉ハンドル	

項 目	仕 様	
ハンドル調節方式	回動 (ワンタッチレバー)	
	上下菊座締付	
ハンドル調節能力	上下無段、180° 回動、 左右15°、30°	
変 速 レ バ ー	手元操作 (回動時手元操作可)	

## (2) エンジン仕様

名 称	G710L-34	G510L-129
方 式	空冷4サイクル (M・T・I)	
排 気 量	267 cc	192 cc
連続定格出力	5 ps/1800rpm	3.5ps/1800rpm
最 大 出 力	7.0 ps	5.0 ps
エアクリーナ	マン形オイルバス方式	
燃料タンク容量	ガソリン 4.0ℓ	ガソリン 3.0ℓ
点 火 プ ラ グ	NGK BM-6AS	
始 動 方 式	リコイルスタータ式	
点 灯 装 置	6~8V 15W	なし

# 3 各部の名称



## 4 運転前の注意

ティラーの性能を快適に保つためには日頃の点検、整備、調整が、機械の寿命に大きく影響します。

次の点にご注意ください。

1. 各部のボルト、ナット類のゆるみ、脱落の有無を点検してください。  
なお10～20時間使用後に各部の増し締めを行なって下さい。
2. 各注油個所に指定のオイルが適正量入っているか点検して下さい。  
輸送中の油洩れ防止のため油が入っていない場合があります。
3. チェンジレバー、主クラッチレバー、マメクラッチレバー、スロットルレバー等が正しく作動するかを確認してから運転を始めて下さい。
4. チェンジレバーは必ずクラッチを切ってから操作して下さい。チェンジレバーが入り難い時はレバーを無理に操作しないで、主クラッチレバー又はマメクラッチレバーを一度入れて確実に切ってから行ないますと容易に入ります。

新しい機械は最初2～3時間は無理な運転を避けてナラシ運転をして下さ

6. 運転時に異常音または異常な発熱はないか点検して下さい。



# 5 潤滑油

## (1) エンジン

### 1) エンジンオイル

エンジンオイルは入っておりません。使用前に必ずエンジンオイルを正  
規量入れて下さい。使用オイルはSC級・SD級・SE級の良質の新しい  
オイルを使用して下さい。(5-1図)

夏期... SAE-30    SAE10W-30    SAE10W-40

冬期... SAE-20    SAE10W-30

### 2) チョークレバーの操作

チョークレバーの操作は寒い時は「閉」にして下さい。始動後は徐々に  
「開」にして下さい。一度暖ったエンジンを再始動する場合は、チョー  
クレバーを「開」又は「半開」にして下さい。(5-2図)

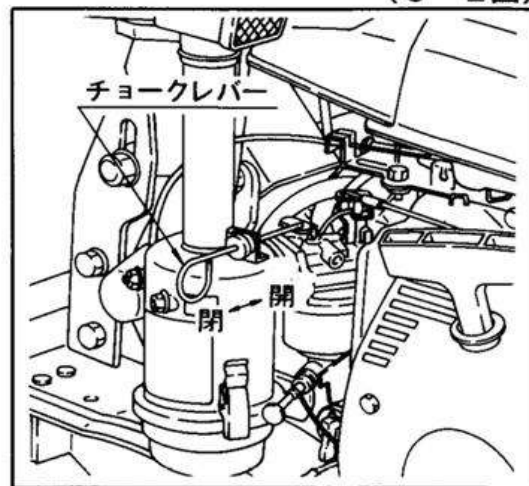
### 3) リコイルスタータ

チョークレバーを「閉」にしてリコイルスタータを勢いよく3回引張  
っても始動しない場合は、必ずチョークレバーを「開」にしてやりなお  
して下さい。もしチョークレバーを「閉」のまま何回もリコイルを引張  
りますと燃料の吸過ぎとなり点火プラグも濡れて始動不良となります。

(5-1図)



(5-2図)



4) 暖機運転

エンジンが始動したら3分間位負荷をかけずに暖機運転をして下さい。  
 オイルを各部へ十分にゆきわたらせるのと同時に作業をさせても大丈夫な状態にする為です。

5) エアクリーナの点検 (5-3図)

オイルが不足しているときは、オイルレベルまで補充して下さい。  
 汚れがひどい時はオイルパン、エレメント共白灯油で洗浄し、エレメントは点滴しない程度に振り切ってください。

6) エンジンオイルの交換

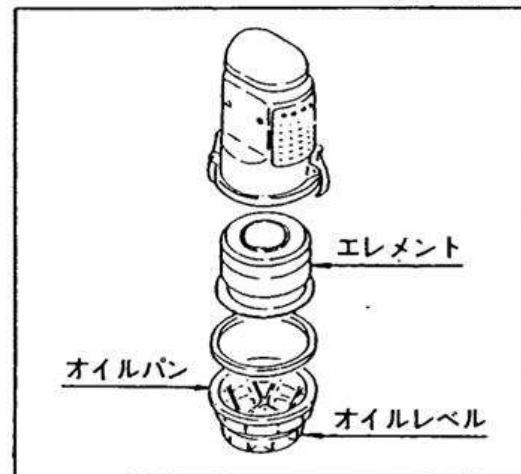
エンジンクランク室	1回目交換	2回目交換
オイル交換時間	20時間後	50時間ごと

エンジンオイルが汚れていると各部の摩耗を早めますので早めに新しいオイルと交換して下さい。エンジンが暖まっている間にドレンプラグを外して古いオイルを抜きますと簡単に出来ます。(5-4図)

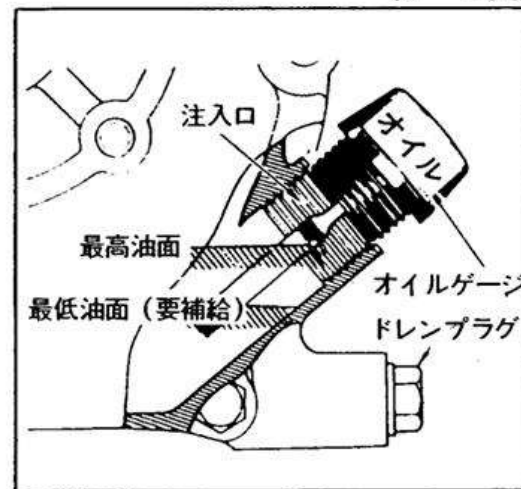
DMC-700 潤滑油 0.9ℓ

DMC-600 潤滑油 0.7ℓ

(5-3図)



(5-4図)





(2) ミッションケース

SAE90番の良質ギヤオイルを使用して下さい。

注油は右側面、注油口から規定量 2.2ℓ 入れて下さい。

注油口より油面が見える程度が適当です。(5-5図)

油を抜く時は排油口より抜いて下さい。(5-6図)

[注意]

ミッションケースのオイルは最初の10~20時間使用したら一度交換して下さい。最初は初期摩耗がありますので早めに交換して下さい。またその後は、年1回か2回交換して下さい。長く使うと老化して油としての用をなくします。

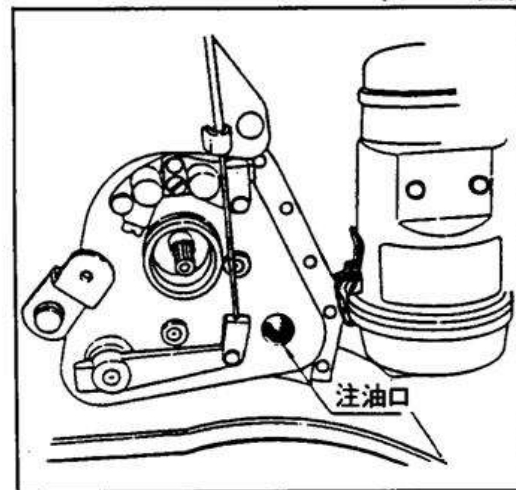
(3) 各摺動部

各摺動部にはギヤオイル、又はモーターオイルを適宜滴下して下さい。

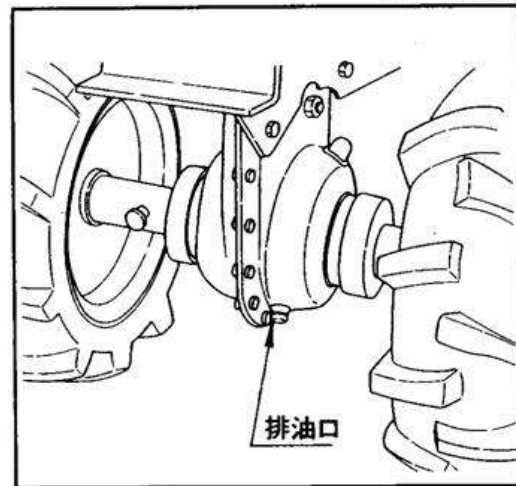
また車軸には必ず油をつけてホイールチューブを取り付けて下さい。

各ワイヤーにも時々注油して下さい。

(5-5図)



(5-6図)



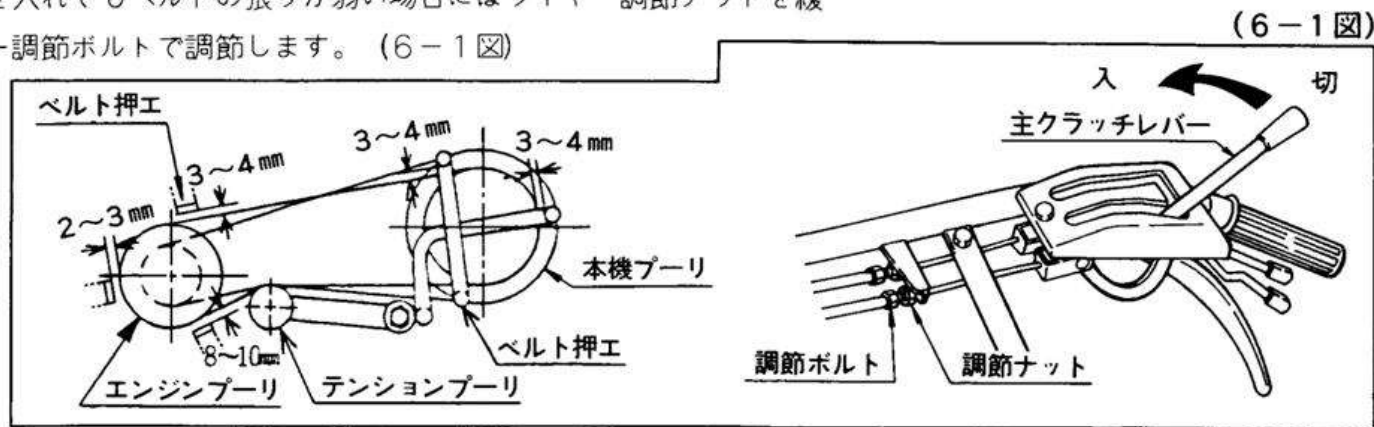
# 6 本機各部の構造と調整

## 1) 主クラッチ

ハンドル右側の主クラッチレバーを前方に倒すと、クラッチが入ります。クラッチを切る場合には主クラッチレバーを手前に引きます。又、連動のマメクラッチレバーはハンドルを握ったまま親指で黒色ノブを押すとクラッチが入り、赤色ノブを押すと、クラッチが切れますので安全に作業ができます。

クラッチはベルトの緊張によって行なわれますので、この調整には特に気をつけて下さい。ベルトの張りが弱いとベルトが早く傷み動力の伝達効率が悪くなります。張りが強いとクラッチが切れず大変危険です。

クラッチを入れてもベルトの張りが弱い場合にはワイヤー調節ナットを緩めワイヤー調節ボルトで調整します。(6-1図)



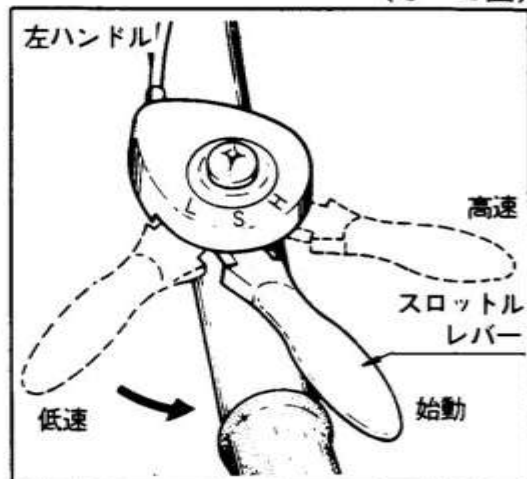
(6-2図)

(2) スロットルレバー

ハンドル左側握部に付いています。レバーを内側方向に廻すとエンジンの回転が上り馬力が出ます。外側に戻しますと回転は下ります。

又、始動時にはレバーを「S」の位置にしてスタートして下さい。

(6-2図)



(6-3図)

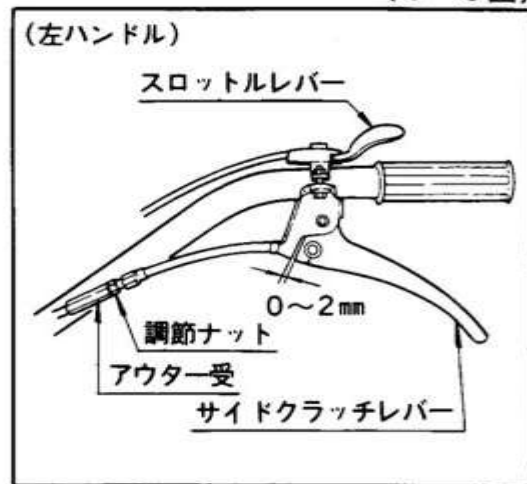
(3) サイドクラッチ

サイドクラッチは車軸に装置されており、サイドクラッチレバーはハンドルの握り部に取り付けられて操作しやすく軽く切れるのが特徴です。

サイドクラッチレバーを握るとサイドクラッチは切れ、放すと入ります。サイドクラッチの調整は調節ナットを緩めアウター受を廻す事により、アウターの長さを変えて行ないます。

レバーつけ根の所で0~2mm位の遊びがあるように調整して下さい。

調整が終わったら調節ナットを廻してアウター受けが動かないように締めて下さい。(6-3図)



#### (4) 変速機構

チェンジレバーは手元操作になっております。前進3段後進1段の変速ができ、更にベルト変速により前進6段後進2段の変速になります。

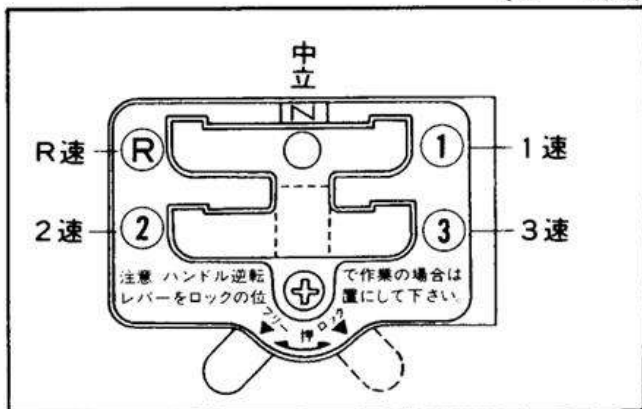
(6-4図)

チェンジレバーの操作は必ず主クラッチを切ってからにしてください。

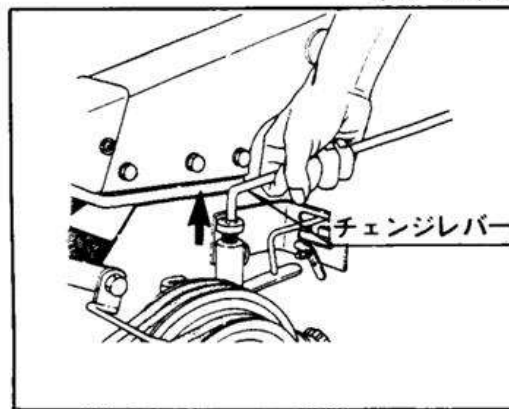
チェンジレバーは元部を持上げ、適当な位置に回動し、レバーを放すと固定できます。(6-5図)

ハンドル逆転(エンジン側にハンドルを回動したとき)で作業の場合はレバーをロックの位置にし、チェンジが2速、3速に入らないようにしてください。(6-4図)

(6-4図)



(6-5図)



(6-6図)

(5) ハンドル

① 上下

上下調節はハンドル支点のクランプレバーをゆるめ使用しやすい位置に調節して締付けます。(菊座締付式)

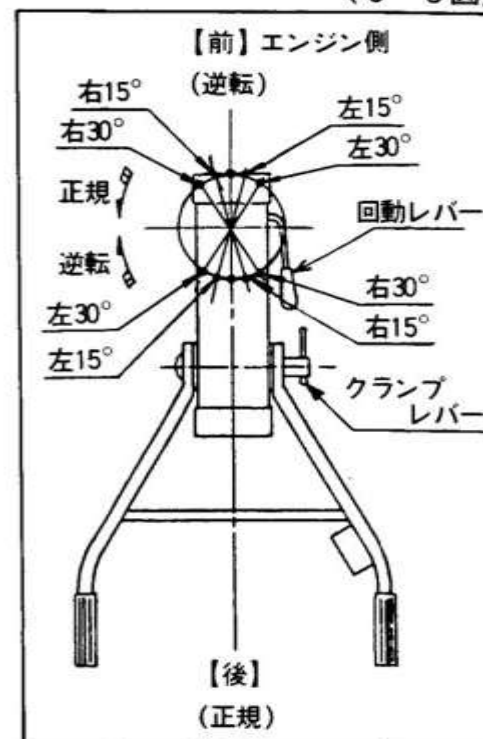
② 回動

前後、左右の回動は、ハンドル本体横の回動レバーを押して行います。レバーを放すと、前後左右各15°、30°の位置で固定します。ハンドル逆転(180°回動)方向はプーリ側のみとなっています。

③ サイドクラッチワイヤー (全自動切替)

ハンドルを逆転するとサイドクラッチワイヤーは自動的に左右の振替が出来る新機構を採用しています。

注) ハンドル回動する場合はサイドクラッチレバーを放した状態で行って下さい。



## (6) エンジン停止の要領

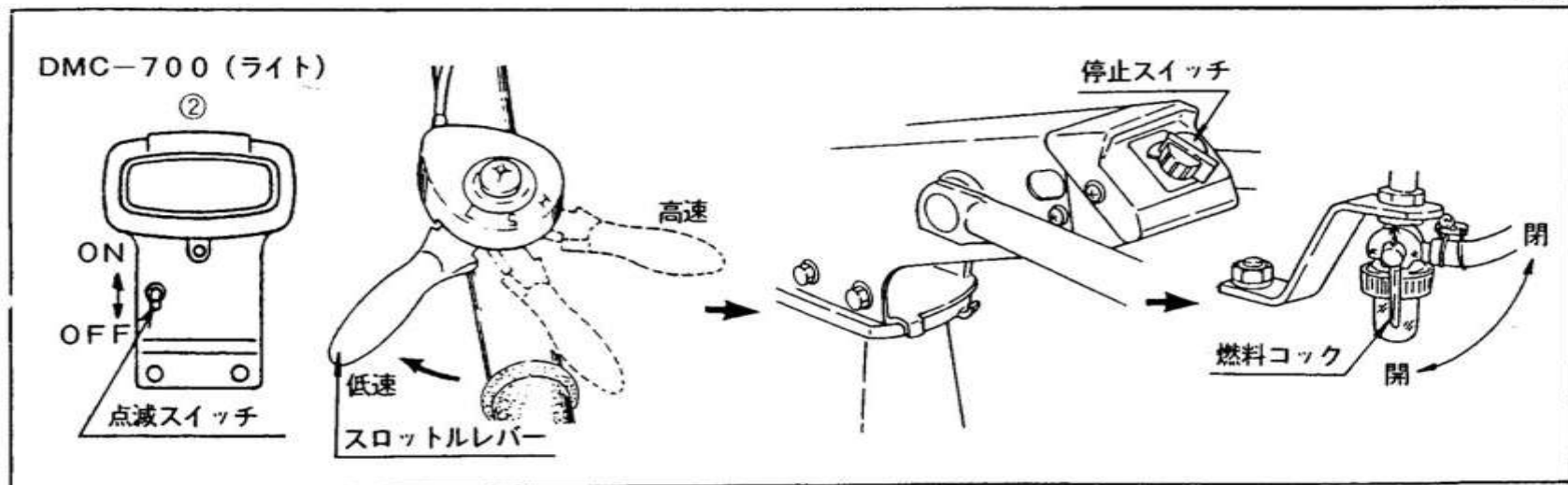
停止の仕方には2つの方法があります。

- ① スロットルレバーを「L」位置（低速）まで戻し、しばらく運転してから停止スイッチをOFFにして、エンジンを止めてから燃料コックを閉じる。（6-8図）
- ② 長期間使用しない場合は燃料コックを閉じ、気化器内の燃料がなくなりエンジンが自然に止まるまで放置する。（6-8図）

## (7) ライトスイッチDMC-700

点滅スイッチをONにしますとライトが点灯します。

(6-8図)

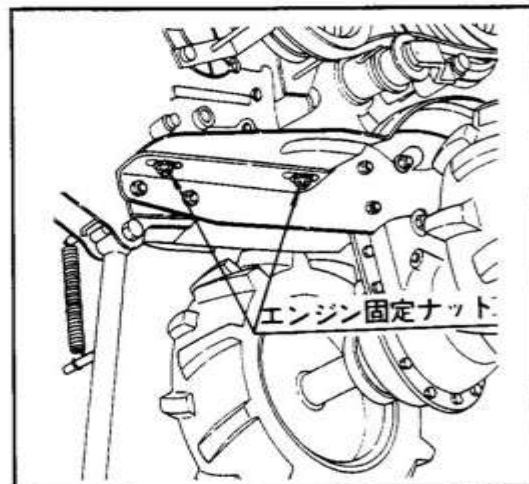


(6-9図)

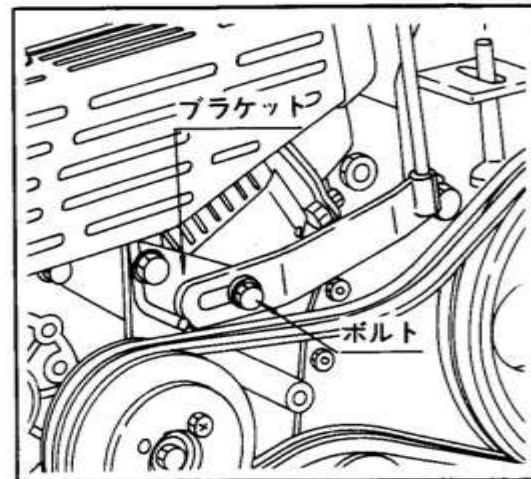
## (7) エンジン前後によるベルトの調節

ベルトが伸びたりまたは新しいベルトに取り替えた時に於いて、主クラッチワイヤーだけでは調節できない場合は、(6-9図) エンジン固定ナット4個と、(6-10図) 燃料タンク後部のボルト1個をゆるめて調節してください。調節後は確実に締付けてください。

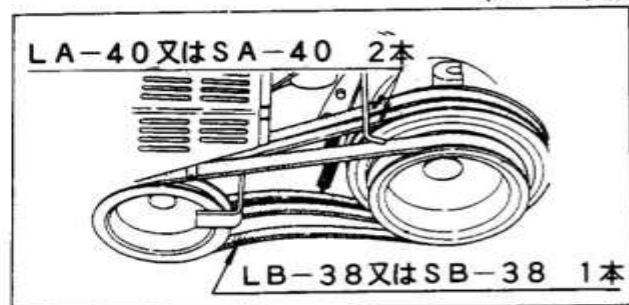
ベルト寸法	低速側	{ LA-40(オレンジ)、三星 又は SA-40(レッド)、バンドー }	2本
	高速側	{ LB-38(オレンジ)、三星 又は SB-38(レッド)、バンドー }	1本



(6-10図)



(6-11図)



(9) バランスウェイト

バランスウェイトはアタッチメントの種類や、作業条件により本機のフロントヒッチに取り付け牽引力を強める働きをします。

(6-11図) キングピンで取り付け、ウェイト固定ボルト2本で固定してください。

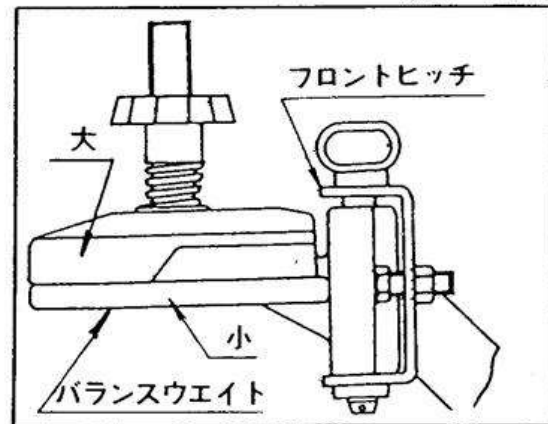
(10) ホイールウェイト (特別注文品)

DMC-600用                      重量    6 kg

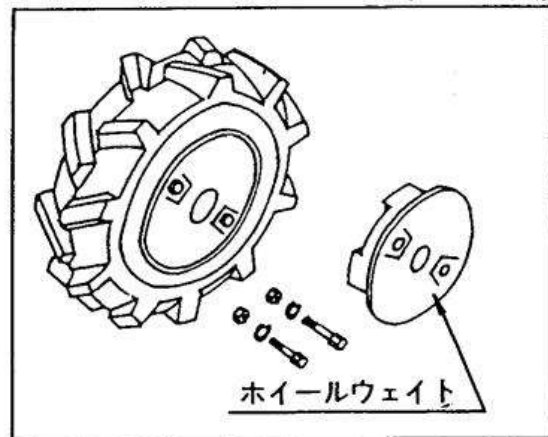
DMC-700用                      重量    9 kg

犁耕の場合牽引力を増すためにタイヤホイールに装着します。(6-12図)

(6-11図)



(6-12図)





# 7 不具合と対策方法

不具合内容	対 策 方 法
エンジンの始動不良	<ol style="list-style-type: none"><li data-bbox="471 381 1750 467">1. ストップボタン及びスロットルレバーの確認 ストップボタンをプッシュ後10~15秒待って再スタートしてください。</li><li data-bbox="471 485 1750 669">2. 燃料の確認 チョークレバーの操作は、寒い時は「閉」にして下さい。始動後は徐々に「開」にして下さい。 暖ったエンジンを再始動する場合はチョークレバーを「開」又は「半開」にして下さい。</li><li data-bbox="471 687 1750 871">3. チョークレバーの確認 チョークレバーの操作は、寒い時は「閉」にして下さい。始動後は徐々に「開」にして下さい。 暖ったエンジンを再始動する場合はチョークレバーを「開」又は「半開」にして下さい。</li><li data-bbox="471 889 1750 1072">4. 点火プラグの確認 チョークをしすぎたり長時間機体を前方に倒したままにしておくとプラグが湿りがちとなりますのでプラグを外して掃除をして下さい。尚プラグの隙間は0.6~0.7mm (ハガキ2枚分) が標準です。</li></ol>

不具合内容	対 策 方 法
エンジンの馬力不足	<ol style="list-style-type: none"> <li data-bbox="473 381 1738 569">1. マン式オイルバスの点検            オイルが不足しているときは、オイルレベルまで補充して下さい。            汚れがひどい時はオイルパン、エレメント共白灯油で洗浄し、エレメントは点滴しない程度に振り切ってください。 (5-3図参照)</li> <li data-bbox="473 583 1738 720">2. リコイルスタータの目詰り点検            リコイルスタータの吸気口にフラヤ草等がつまりますとオーバーヒート気味になりますので掃除をして下さい。</li> <li data-bbox="473 734 1738 967">3. エンジンオイルの点検            エンジンオイルは規定量入っていますが、エンジンオイルが汚れていると各部の摩耗を早めますし、又傾斜地等で使用の際はオイルが少ないと焼付をおこしますのでオイルの補給をして下さい。エンジンを水平にしてオイル注油口のキャップをねじこまず差し込んで点検して下さい。</li> <li data-bbox="473 980 1738 1118">4. ローター部の点検            草やつるがローターに巻きつき余分な馬力を必要としたり、又作業性能も悪くなりますので掃除をして下さい。エンジンは必ず停止して作業して下さい。</li> </ol>

# 8 手入と保存方法

長期間運転しない時や長期間保存する場合は次の手入を行なって下さい。

1. 本機の清掃、洗浄、注油

泥、ゴミ、塵りなどは水洗し、水洗後はよく水分をふきとり各回転部、摺動部にたっぷり油をさして下さい。

2. オイル交換

オイル交換は作業が終って潤滑油の暖いうちに行ないますと大変楽ですし、又きれいに排油する事が出来ます。

3. シリンダー内の錆付防止

点火プラグを外し、プラグの穴よりエンジンオイルを約10cc位入れ、リコイルスタータを2~3回引いてプラグを取り付けて下さい。圧縮のある所で止めて下さい。

4. 燃料タンク、キャブレター、燃料コック内のガソリンは完全に抜き取って下さい。

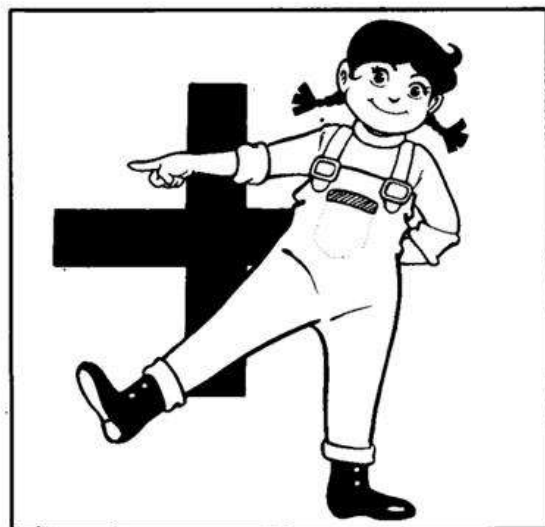
5. 主クラッチレバーを「切」にして下さい。

主クラッチレバーを「切」にしてベルトをたるませておいて下さい。主クラッチを「入」にしておきますとベルトに無理な力が働きベルトの形状が変形する事があります。



# 9 安全作業のための心得

- (1) 過労・病気・薬物の影響・その他の理由で、正常な運転操作ができないと思われる場合は機械作業に従事しないで下さい。
- (2) 適正な帽子や作業衣を使用し、衣服の一部や頭髮・手拭等が巻き込まれないようにして下さい。
- (3) 作業前には常に正常な機能が発揮できるように各部の点検整備に心掛けて下さい。また、作業後にも、次の作業のために点検整備を実施して下さい。
- (4) 機械の点検調整や草の巻付の除去する作業等は、必ずエンジンを止めてから行なって下さい。
- (5) 作業機の着脱はできるだけ平坦な場所で行なって下さい。
- (6) エンジンを始動させる場合は必ず主クラッチを切ってから行なって下さい。
- (7) 燃料を給油する場合はエンジンを停止し、火気は厳禁のこと。特にくわえタバコでの給油は絶対にやめて下さい。
- (8) 作業中は作業関係者以外の者を機械に近寄らせないで下さい。特に子供には注意が必要です。



- (9) 作業中は機械の周囲に注意し、安全を確認して下さい。  
特にバック作業時には足元の注意が必要です。また、バック発進時にはハンドルが取られやすいので静かに発進して下さい。
- (10) ハウス内の作業や屋内での点検整備では排気ガスがたまり易いので換気には十分な配慮が必要です。
- (11) エンジンのマフラーは非常に高温になりますので絶対に触れないで下さい。  
また、機械におおいをかける場合はマフラー等の高温部が完全に冷却した後で行なって下さい。
- (12) 定置作業の場合等にベルトカバーをはずして作業機をセットする時は周囲に柵等を設け、手等がまちがって触れる恐れがないようにして下さい。

